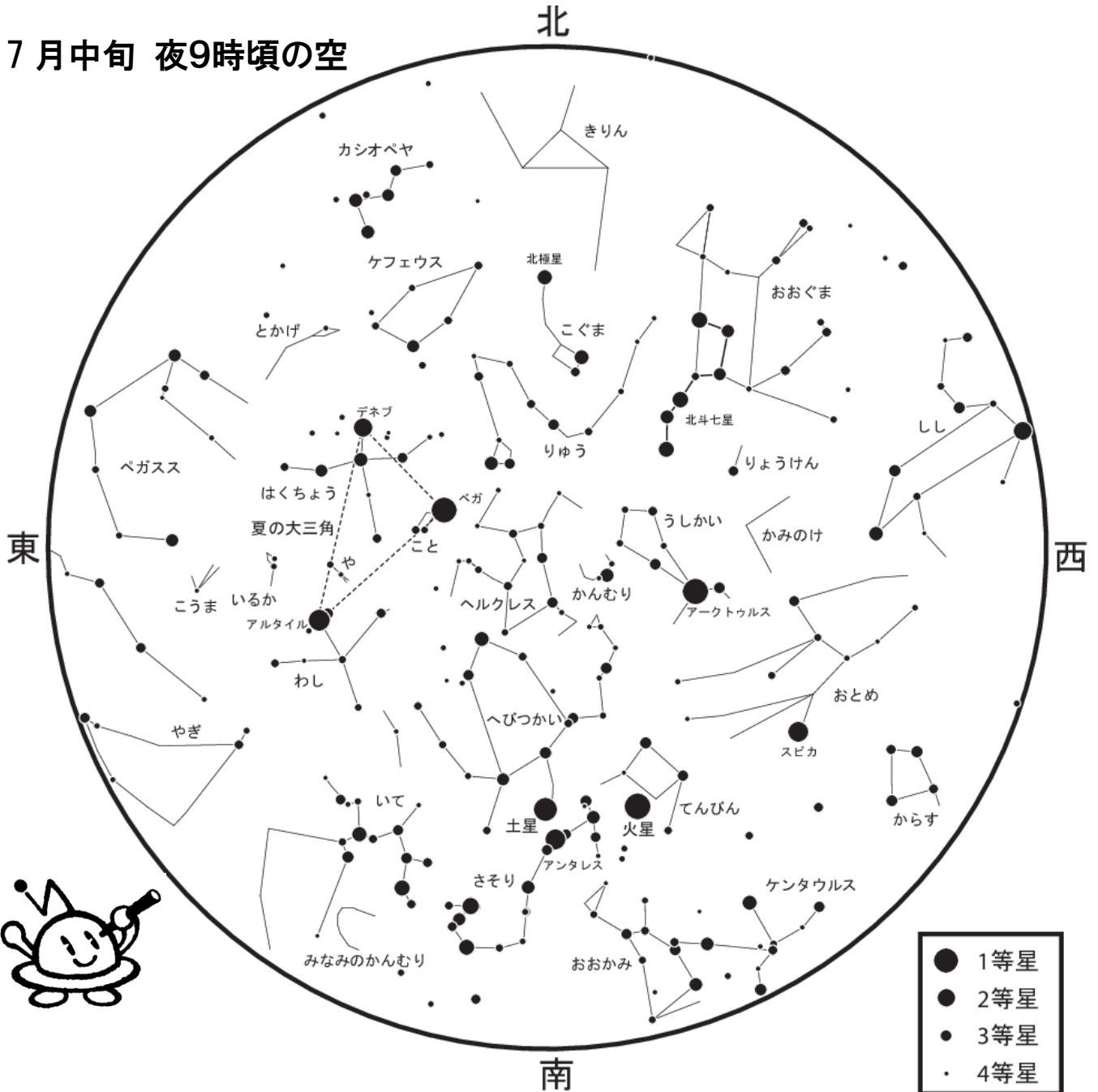


阿南市科学センター 7月の星空案内

7月中旬 夜9時頃の空

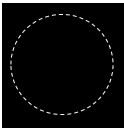





7月ごろになると夏の代表的な星座や星が夜空を彩り、はくちょう座のデネブ、こと座のべが、わし座のアルタイルをつなげば夏の大三角をえがくことができます。べがとアルタイルはそれぞれ七夕で有名な織姫星と彦星にあたります。そして南の空にはさそり座のアンタレスが赤く輝き、火星とならぶ姿はその名前の由来(アンチ・アレス = 火星の敵)を強く実感させてくれることでしょう。なおアンタレスの近くには土星も見られ、小型の望遠鏡でも土星の環(リング)を容易に観察することができます。

天体観望会の予約・お問い合わせ先

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川淵8-1 電話 0884-42-1600

◇ 月の満ち欠け

名称	新月	上弦の月	満月	下弦の月
形状				
見える日	7月4日	7月12日	7月20日	7月27日

◇ 惑星について

名称	水星	金星	火星	木星	土星
見どころ	夕方西のごく低空に位置する。	夕方西のごく低空に位置する。	さそり座の頭のあたりで見られ、観察しやすい。	日没とともに西の空で見られるが、前半夜には沈む。	アンタレスの近くで見られ、観察しやすい。
明るさ	約0等	約-4等	約-1等	約-2等	約0等

◇ 今月のおすすめ天体/天体観望会

土星と火星を見てみよう！

2016年は土星と火星がさそり座の近くに位置し、この夏とても観察しやすくなっています。土星の環(リング)は公転軌道から約27度傾いているため、年ごとに観察すると環の見え方(傾き)が少しずつ変化します。今年の環は図1(左)のように大きくひらいた状態でみることができます。なお火星は最接近時(2016年5月31日)に比べると、明るさは約1等暗くなり、見かけの大きさも約20%ほど小さくなっていますが、明るさはまだ土星よりも明るく、見かけの大きさも平均的なサイズより約40%ほど大きく見えます。

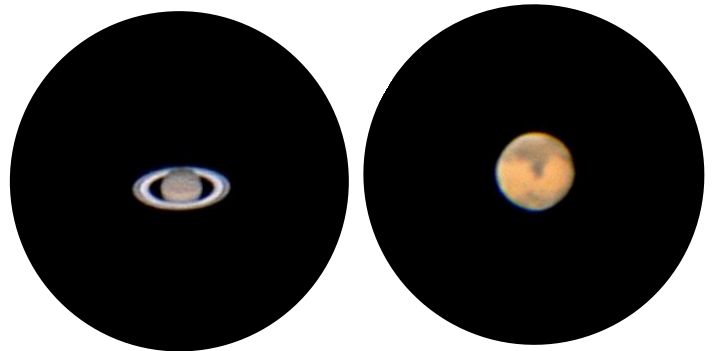


図1: 土星(左)と火星(右)の写真 [2016/06/01].

撮影: 阿南市科学センター

◇ おもしろ天文学 ～七夕の彦星の正体～

七夕伝説に登場する彦星はわし座のアルタイルという星にあたります。この星は約17光年離れたところに位置し、1等より明るい星の中では地球から4番目に近い星です。サイズは太陽の約1.6～2.0倍の大きさですが、不思議なことに形がラグビーボールのような楕円形になっていることが知られています(図2)。この原因はアルタイルが非常に高速で自転しているため(太陽の約121倍)、遠心力によって赤道部分が膨らみ、このような姿になってしまうと考えられています。

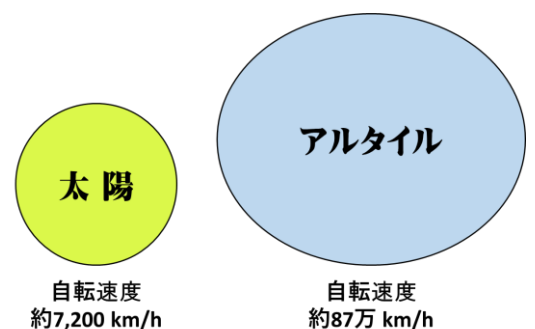


図2: 太陽とアルタイルの大きさと形